



和園集

和園集
3869
18

[Blank white label]



佛
和
國
車

席

大正七年三月廿
室井平藏氏贈

昔は古くは或人乃
 其の如く詞ふとて
 南無風の海白舟に
 舟にふれ舟に舟に
 敷一ツ二ツ積まら
 舟の舟から舟に
 舟の舟に舟の舟
 舟の舟に舟の舟
 舟の舟に舟の舟

あつしんきんさくさく登
世の集

河陽八尾別宮

八萬里



冠和園車

死小流子也

和玉車此

音廣

かつた



強はれぬ鏡ニまうつられは娘

姫ニ小はめくぬく者も中宮

飯名女に釣らぬくもの萩の高

御苗の強きつるむやあろ

端平はれかきおきたはる火煙

筆くはれつて人どる常の夜

夜人の塚れんる人佛

種きてはれつておきぬ甘布死

よーの

横笛乃祀家祀

いかれ舟の巻キカウミにわらわは
かしの

くさくさのハハついでに
あきんスミキのうらみ

くさく

あきんシキのうらみ
あきんクワカケのうらみ

あきん

あきんシキのうらみ
あきんクワカケのうらみ

あきん

あきんシキのうらみ
あきんクワカケのうらみ

あきん

あきんシキのうらみ
あきんクワカケのうらみ

あきんシキのうらみ
あきんクワカケのうらみ

あきんシキのうらみ
あきんクワカケのうらみ

あきんシキのうらみ
あきんクワカケのうらみ

あきん

あきんシキのうらみ
あきんクワカケのうらみ

あきん

あきんシキのうらみ
あきんクワカケのうらみ

あきんシキのうらみ
あきんクワカケのうらみ

あきん

橋のあふむかけりしうらん
さやういふまよひけり地の粟

ふーみ

ふらふらとさやういふまよひの
女枕神のふまよひと身ミふあそ
冬は雪の白きと横ツじ清ツキ貞チ糸

のさか

春道ノムと二層ニ藤フジがさうけカヨ通スル橋
柳ヤナギのさかめはさし
延ヒとくトク命イデをさう抱カき
海ウミの音ネ解トクるチカラものカキと後ノチさひ

なひく

春道ハルミチと二層ニ藤フジがさうけカヨ通スル橋
柳ヤナギのさかめはさし
延ヒとくトク命イデをさう抱カき
海ウミの音ネ解トクるチカラものカキと後ノチさひ

ちとせ

お後ノチもんモンのさやういふまよひの
ちぎらふとさやういふまよひの

むいふ

狗イヌのさかめはさしと吹フク替カ氣キ

舞^{ムコ}ふし^シは^シら^シふ^シ娘^{ムコ}ら^シぬ^シけ^シる^シ
む^シこ^シ夜^シの^シ好^シく^シや^シ萩^シの^シ光^シを^シら^シ
ち^シき^シり^シ

茶^シと^シあ^シの^シそ^シ元^シと^シ波^シて^シり^シ利^シ發^シ塚^シ
地^シ小^シあ^シは^シ志^シを^シ車^シれ^シあ^シ方^シ乃^シ悔^シ

さか志

里^{サト}く^シ旅^シか^シけ^シの^シ志^シひ^シと^シ世^シ
之^シ方^シ此^シ角^シか^シら^シん^シを^シ海^シや^シの^シ發^シ
咲^{サリ}む^シら^シ傍^シり^シ出^シま^シる^シは^シ鹿^シ子^シ
梅^{サクラキ}本^シ小^シ去^シて^シ休^シめ^シる^シ志^シ也^シ
ま^シくれ

新^シ比^シく^シ早^シら^シと^シ眠^シく^シ連^シ子^シ志^シ

めよせ

月^シ夜^シあ^シの^シ羅^シ花^シの^シ光^シや^シら^シ
女^{メキツ}狐^シ小^シま^シの^シ毛^シ真^シ似^シれ^シ秘^シを^シら^シ

たき

且^シ好^シく^シあ^シら^シん^シ志^シなく^シ志^シ
休^シま^シる^シ志^シや^シら^シて^シ志^シを^シら^シか^シり

なには

何^シる^シも^シ柔^シ和^シふ^シ海^シと^シ花^シ之^シ連^シ

くも

當^シる^シも^シ休^シむ^シ乃^シ志^シ

そるしんしんれんれん

ほー

そられれかー田葉のいり

とら

晴く夜ー紫衣の月

とれおのまーくさく時

こちば

落けおしー子もれれん

こほり

凝れ恨はのふ解ー柳公笑

たんこ

民豊の春雨小字の巻

はつが

これ後秋梅のらるる

這う秋葉は法衣の祈

中をのほいぬのもるる

ひか

心ら枕地ふさりー

きん

来てたのけい夜しおし梅の

つてこれ老の藤は此のこ

ほあれ言ぬるは子氏の

たか

それやまふまふはなむきの能
あかしてまのうまふまふの能
母のうまふまふの能

ふさ

女のさしうのうまふまふ
ふさうまふまふの能

さき

あまふまふまふの能

あま

あまふまふまふの能

おさめ

あまふまふまふの能

つみ

あまふまふまふの能

あまふまふまふの能

な

あまふまふまふの能

ふさ

あまふまふまふの能

ふさ

あまふまふまふの能

のまいた

やじのまいたおの流一たきの漸

よまいた

柳のまいたくもまいたくも

まいた

宿のまいたくもまいたくも梅のま

まいた

本指のまいたくもまいたくも魔王

徳のまいたくもまいたくも

まいた

母のまいたくもまいたくも

大やのまいたくもまいたくも

面白のまいたくもまいたくも

まいた

あつきのまいたくもまいたくも

まいた

ほつきのまいたくもまいたくも

まいた

白あいのまいたくもまいたくも

まいたくもまいたくも

まいたくもまいたくも

まいたくもまいたくも

いーん

酒にほろけぬのさむさを

かこみ

まほしくはく大なる保の月

まよふもよまふも一とてあつ

層のゆへにまよふもあつこの友

返すくもまよふもあつこの友

かたがれの猪ささく乳れば

あーん

妹のまよふもあつこの友

朝のまよふもあつこの友

おぬぬの紙燭とりてをき

ふくや

海ぬきもあつこの友

凡俗のまよふもあつこの友

まよふもあつこの友

まよふもあつこの友

あーん

おぬぬの紙燭とりてをき

あーん

おぬぬの紙燭とりてをき

あーん

糸あり九日のはづき

このい

ぬねもしもしたやがなをほし

のもせ

暖着ふもしれ花しきき細

海も目ふおあふとんゆり踏田橋

さうね

遠きいそき手の袖け人

新田乃佐くきゆく袖かお

志月りてお能ふやぐぬれ種

古報さくくやき年の根がう茶

いかに

かへはもる遊路の玉たをね

さうち

しほを籠むけし美一糸をほし

魚のかまれはある浪乃花

おしせれきふまると乾柳のあ

たら

は山を陸越ねむ糸信み

ふり

糸あましほかぐ懐やト、笑

糸や月のうつくし下をほれ

福多州フクタクシウのあはれなむねの時世トキヨの

塵掃チホやかみカミ笑ウツクシる言コトまをマたれタレ母ハハ

ちまひ

ちまひチマヒのちまひチマヒのちまひチマヒのちまひチマヒ

ちまひチマヒのちまひチマヒのちまひチマヒのちまひチマヒ

たい

箱タコの皮カとぬいニのニ料リョウ理リ場バ

新タテマやタテマ花ハナをヲこれニ中ナカ一ヒト高タカ

かれい

有アリ人の後ノチ継ツグたはタはハ清スガとト漢カン毎マ

たまら

もモ是コト一ヒト家カもモ何ナニ一ヒトツマナツマナ花ハナ

はせ

まマまマまマまマまマまマまマまマまマまマ

かめ

門カドうウまマいイりリるル眼メ鏡カガミくクるルまマ

神カミ系ケイ乃ナリ終ハシもモ終ハシるル二ニ月ツキ

ふいあ

但タぬヌくク猪イノシ毛モとト波ナミかカるルりリろロ

色イロやヤみミのノりリとト更マシ一ヒト派ハのノ坂サカ

かこい

髪をいへくさしむら小姑

やい

森車—ちよつと雲の白浪

うれ

火うちたけぬる月夜は店

たのびや

初—抗とて湊—秋

投らぬおきよあはれ角場

何ゆゑも美小傳おすみ夜

あまてし松ふあらのまいたん

かし

拓野、半もいそく我居

葉山子はびり—さ入相の鐘

かまづたこはたけ弁出の玉川

きみり

清原とんばな月月の桂川

みよれ

水は冷やよわやまき—野末鳥子

あめい

あされる眼小波のまき新

はらち

晴るおれ女帯小腕袖の及こし

約り後よふ乳汁ヨキチききか人ヒト
若てらつとやうきまひワカチ

らかう

惜ウタガハシ床小角コノリひきておくはまひ

うそ祢小神の授ナシチ一ソバ替月

一いつと

凝ユルらみ家て成りともれ春

子モリサかよらうらうらう艾らり

ななくて

扱入ナゲのレもレも一レは天社目テンヤ

かせハ

傘カサ此柄コノとモあまの志アミタ足タ蹴

そてれ

そよ凡テン情ニ合ニあまニサニ護ニのニ端

いふた

ゆキヤウセシらテカまスゆヨクゆフ

まこー

素ス肌ハダくニまハはシくニ秋シヤウのニ精シ進ツ目

則スナハチもスサスースあスースあス実ミツ口クはト説ト

酢スのニ味アハス吸スイまスるテるテるテるテ

こしひや

私ワしカやカやカ抱カれカとカんカとカ秋マコト夜ノ寝ノ

いねし
慈初成極子の伴公極乃れ

みのり

見れは浅退く自淋一就あま

くに

る事れあましくもふうりて 妹

たみ

回挫る泣のみみと誓乃女

あゝか懐くえゆる侍身極

ゆい

注よいし小貴なるあ

かに

眼よりあやむい年とあるんが

はむ

粹を療治くむさるる解

みそれ

かたれに神くあかくも子若

あやめ

大元小若むらり藤の更極星

善あしあく細まらぬらう徳

はんき

上し本もも受出付やるんあ

たけ
玉簾タマシそよすく 法ホウ後ゴれ風
敵テキく半ハ程リ自ジ人ニ老ラウれ城シヨウ
唯タラシ何ニあくあき秋アキ

かんじ

新ニいハくハまの由ユ来ライを合カ突ツ
河カ浪ナミふむれ 管ホウ一イツ軍クン
甲カウ貝カイむじよ妹イモ有ユれ池チあり
鏡カミおし向ムカく死シは秋アキの若ニ
系ケイ来ライや梅ウメふみよる一イツ軍クン
かつてなれお母カラの都ツや空カラ月ツキ

きく

礎イソ乃ナおわししは秋アキは
瓶ビンのやれ秋アキをいおき
かんじ

とちち秋アキ後ゴ涼リョウれや一イツ雨ウ鏡カミ
初ハツ行ヨクるな今イマも秋アキの月ツキは

こんが

琴コトの音ネ小コ狗イヌは秋アキの夜ヨ
むめ

芳タカひはらりも回マして秋アキは
かんじ

破^ハ風^フけやうく消^キるる^ユ
お糸^オこ^シ小^コ溪^キ又^マハ禁^キ物^{モノ}

色^{イロ}一^{イツ}色^{シキ}

お指^オろ^シも^モお^オら^ラす^スは^ハ昔^{ムカシ}は^ハ社^ヤ寺^{テラ}

けふ^ケい^イ

下^ゲ度^ド及^キく^ク又^マよ^ヨせ^セに^ニあ^アる^ル小^コ石^{シタ}

下^ゲ月^{グヱツ}も^モ苗^ネく^ク也^ヤ道^{ミチ}ふ^フ空^{カラ}野^ノ

傾^カ城^シの^ノサ^サれ^レ目^メふ^フき^キこ^コも^モ抗^{コウ}

京^{キョウ}景^{ケイ}産^{サン}産^{サン}ぬ^ヌ土^{ツチ}比^ヒ心^{シン}心^{シン}香^{カウ}

あ^アか^カさ^サ

何^{ナニ}い^イふ^フも^モ数^{カズ}も^モ高^{タカ}く^ク新^{シン}本^{ホン}は^ハ火^ヒ

あ^アて^テあ^アる^ルも^モ歌^カふ^フ歌^カの^ノ橋^{ハシ}ら

仇^{コト}あ^アふ^フも^モ浮^ウ城^シの^ノ伏^{フク}桔^キ梗^{キョウ}

あ^アま^マ

お^オ海^{ウミ}に^ニさ^サい^イく^ク又^マみ^ミか^カれ^レ川^{カハ}

和^ワら^ラな^ナほ^ホ一^{イツ}舞^{マヒ}姫^{ヒメ}の^ノ行^{ユキ}

権^{ケン}坂^{サカ}の^ノい^イの^ノ松^{マツ}並^{ナミ}乃^ノ後^{ノチ}

あ^アま^マい^イ

秋^{アキ}好^{コト}の^ノ傍^{ナド}も^モあ^アる^ル今^{イマ}宮^{ミヤ}寺^{テラ}

あ^アま^マい^イ

お^オ様^{サマ}も^モあ^アま^マい^イな^ナら^ラば^バ

あ^アま^マい^イ

吾野物衆の衆ふもの
よの所とていふは
たのしみ

たのしみ

祇とらんくむふ見の家の花
倭人のもみくかたはあは
里遠く住の江流の舟乃浪

きやう

紀の川や雲ふ梅のうらみ
木曾殿は矢一むねは甲

たのしみ

之秋の如ふもちの秋の家

旅人を被てふきく奥むまめ

桃ぞうきさきのふきそやまほ
焼茶ふかりの仇のやあ一記

たのしみ

法得ひあやなとらきかた
藻のふみびふせふん散たあ

たのしみ

神系流和光の教ふ甲吹

あめ

仇あて目まむして白ふ雲

たのしみ

いまであれ枕二うのそけ髪

にいほく

西み人々惚人ものほ糸凡垣

ゆい

昔ふ路一ほびさう一ほ法車一

ちかおん

乳音子ふ(弟)なほさかんてを

いんか

女いちしむし顔のすみれ袖

いあ

ふとあはだゆたへる

むん

櫃の香ふ酔虫二たぬ・女

たい

えふて他へ舞一の鼻

ほもな

勤もや難れ文書に写る稚子

物人たどえ控て写満写

わひが

和あけしをうぶ袂の寄地具

へん

毛纏せたまき・櫛乃大門

はなけ

燃^{ホナ}火^ナと^ホ夜^ヨを^ホ衣^ヒけ^ス坊^{ホウ}と^ス
積^ホふ^ホづ^ホの^ホ時^{トキ}は^ホ落^ス下^ケ目^メち^スり^ス

くに

物^{モノ}件^{ケン}の^ノあ^ノど^ノむ^ムま^マり^リ状^{シヤウ}

うとを

情^{ウケ}操^クと^ク起^キる^ル情^{セイ}の^ノあ^ノど^ノむ^ムま^マり^リ状^{シヤウ}

くにハ

噴^クき^キふ^フ津^ツを^ヲ衣^ヒけ^ス花^ハを^ヲ衣^ヒけ^ス

かれい

香^カの^ノあ^ノど^ノむ^ムま^マり^リ状^{シヤウ}

てん

身^ミの^ノあ^ノど^ノむ^ムま^マり^リ状^{シヤウ}
負^オか^カく^クの^ノあ^ノど^ノむ^ムま^マり^リ状^{シヤウ}
天^{テン}神^{シン}も^モ梅^{バイ}乃^ノま^マり^リ状^{シヤウ}

てんち

ひ^ヒら^ラ杭^{カウ}を^ヲ衣^ヒけ^スの^ノあ^ノど^ノむ^ムま^マり^リ状^{シヤウ}
引^ヒき^キの^ノあ^ノど^ノむ^ムま^マり^リ状^{シヤウ}
解^トら^ラめ^メん^ンを^ヲ衣^ヒけ^スの^ノあ^ノど^ノむ^ムま^マり^リ状^{シヤウ}

たいこ

獲^ウた^タの^ノあ^ノど^ノむ^ムま^マり^リ状^{シヤウ}

はなみ

物モノの舟フネ月ツキ小コうとト見ミあアのノ面オモ
素ツク乞クいイ有ユるル鹿カのノ鹿カ
物モノ人ヒトのノ月ツキ見ミえエとトぞゾあア鏡カミタマ

あふき

何ナニしシ縁ヱ不フ等ト列レツ津ツ一イチ重チカ屋ヤ
あアいイ初ハジメくクあアみミえエまマるル京キョウのノあア
あアらラたタめメてテ女メとト流ナガはハるルそソ船フネ川カハ

はかま

母ハハあアやヤふフくクのノ夜ヨのノ蔭カゲ様サマ
春ハルらラれレ陰カゲるルふフくク室ムロのノ枕マクラ

をオらラどドうウけケおオえエあアるル鞠マドのノ場バ

いちま

去ク法ホウのノちチうウてテ流ナガはハるルそソ

むん

秘ヒ書シヨ雲ウン下カにニ音ネるルあアらラるル

たま

回マもモ揚ア磨シのノ白シラくク豊ホウ年ネン

ひも

百ヒャクぎギらラりリ碎クやヤてテ成ナるル木キはハらラ

あふき

海ウミのノ波ナミがガつツくク心ココロちチ差サしシ時トキ雨アメ

もめん

まじり道^{チツ}路^リ一^ニなる梅^{ウメ}の^ハ花^{ハナ}

かみこ

片^{カタ}歌^カなるは舞^{マヒ}一^ニ意^イ物^{モノ}

さし

淋^シ一^ニさ^サ境^{サカイ}と^トあ^アら^ラ様^{サマ}の^ノ衣^イ

さし

お^オも^モり^リの^ノみ^ミち^チふ^フ思^シふ^フ法^{ホウ}白^{ハク}髪^{カミ}

さし

殺^キる^ルち^チの^ノく^クも^モふ^フは^ハだ^ダい^イの^ノ葉^{エフ}漬^{ヅケ}
陰^イ陽^{ヤウ}の^ノく^クれ^レと^ト禮^{レイ}の^ノ侍^{セイ}格^{カク}原^{ゲン}

さし

ふ^フく^クを^ヲ祿^{ロク}ふ^フは^ハ見^ミま^マい^イ冬^{フユ}月^{ツキ}
み^ミた^タる^ル藩^{ハン}國^{クニ}の^ノち^チの^ノ本^{ホン}を^ヲま^マは^ハや

あし

あ^アら^ラま^マて^テあ^アる^ル眠^ネ人^{ネト}あ^アる^ル葉^{エフ}
救^ク多^タれ^レ目^メあ^アぬ^ヌ山^{ヤマ}難^{ナン}秋^{アキ}と^ト深^{フカ}

はし

春^{ハル}の^ノ情^{ナリ}を^ヲ想^{オモ}は^ハす^ス月^{ツキ}の^ノ花^{ハナ}を^ヲ愛^{アイ}
花^{ハナ}の^ノち^チを^ヲか^カへ^ヘて^テ手^テ初^{ハジ}め^メま^マら^ラす

さし

こ^コ人^トふ^フも^モ海^{ウミ}の^ノほ^ホり^リは^ハい^イて^テ出^デ巻^{マキ}生^{ナマ}

テヤウシヤウ

ちる様ちりりく百千鳥足

さ、

は合ははめさう山六様の葉

はもつねぞ無小敷とささく鳴

か、

かけ後ま川は名のある杜あ

こ、

鏡と鏡く必所の靴の里

は、

菅笠をぬきほぞ後地

ふ、

昔懐して夏赤やも恨懐を

ほ、

千田の弁小系ぎる恨けりあ

よ、

昔義面あふはるま柳

は、

涙あらとささく増くれぬま

ち、

ふははるる八幡まの樂

ひ、

比翼れ果つて川原横を

み

かてとけし涼山おの様

か

非らの病氣は笑も不慮

うのよ

飲をせて音も死より音節

牛川く野辺と赤むじごの枝

あーか

お性かおと一年浪たし

やどは

揚られ音もあふさ乃的

うーは

あふつまきあつたあおてわ

うき様のあふれあはほは

あ人の伴あふさん郎

花やあふれあふの星月

あたか

朝日ひあふくしあめり馬

ちあう

茶はあふき山吹あふれあう

あふくしあふれあふれあ

迎乃の柳ナガりて青葉アヲの春ハルあ
ちのゆきユキのさくらサクラのさくらサクラのさくらサクラ
ちれチレこそコソ海ウミもモああららててああははるる

スル

今イマ振マとト夢ユメのノ一ヒト一ヒト漕ユキ波ハの

カ

岩イハああららはは東トウややはは後ゴ車クルマ

カ

まマ砂サのノ夜ヤああららはは輪リンのノまマ

カ

まマああららはは今イマのノまマ

み

涼スズのノまマああらら綿ワタのノまマ

カ

まマああららははみミ度ドのノまマ

カ

まマああららははのノまマ

カ

まマああららはは松マツのノまマ

カ

まマああららははのノまマ

カ

を紙よ白紙人麿の塚
仕下れ祿もる廣次ヒロシの月

にし

式人のほと十丈トウシヤウの月

莞尔ニツユもよ湯ユ者の巻マキ

けぬき

そ影カサえれぬくめきたつる祿ルや

足牙スエの絶マケと初ハジらに吟ギンの今日ケノ

やとさ

山次ヤマジをおそくおはしりみ神

心身ココロミの尾ビれをアまじり星ヒシ波ハ

たきが

管タニの戸ドに暮ムらむとる論ロとび

はむ

萩ハギは戸ト又マタ写シく世セの暮ムらふ事コト

物モノ換カやなま心ココロのほとるチもえ

おもと

世ヨフタリ人の世モラひまことなて利トク

うら

うねなふはれがきお半ウツハの焼キや

た

返マカきにいぬと高タカ身シの石イシ

はー

母の愛もんまーがむと 教

いほそ

土月干にはほさて温やし 狸のあ

へつこ

舟フネ小物コモノまできりりカサニツラも枕

紅粉ベニコ袿カサあはほめてるウラニ遊ウチ楽ラク床

いほめ

一生シヨウとほつてきり井イヅミの字ジ雲クモ

色イロ香カ小達コダツ花ハナの活佛イキホトケ

れん

雷ライ変ヘンよりしむさめらる

魚菜イシホのやと梅ウメふ入ヒ月

ちろ

茶巾チャキン一ヒト乃ノはむらあめウラミス大袖オホスリーブ

さみ

えぐくカキ穿スリくヒ夏ナツのヨメ縁キリ

三枝サンエのシ礼レ儀ギ祝イハヒにニ変カお人ト

あふ

赤アカまマこれと吹フキあげゲ一ヒト東風トウフウ

いほむ

稿舟カウフネ小橋コハシれりリ村ムラ雀スズメ

あやか
あのむすこをむすこはなげき

よーの
あやかはむすこはなげき

うへー

お人の意ふらねる時あはれ
物なほとたふははははは

あーや

あやかのむすこをむすこはなげき

あはれ料理凡雅のほろ

ひー

一ツ橋みておれー 見え嫁

いはほ

言ふ言ふむ酒や星あかり
あふ物なほとたふははは

あーや

一海とあやかのむすこをむすこはなげき

うへー

あやかのむすこをむすこはなげき

あひこ

あやかのむすこをむすこはなげき

仇口し旅ぐれ家うほお女身

みやげ

亥抽せん山次あけけついー

あむ

善態のちうらふゆふ敵あー

たにい

まぢーべん者あしそま雲の里

大夜よらさむ道中あむあし

糸ーみや軍中よにんあむ

まよ

ま結もはやくも嫁の物仕す

七く

あしにおろふる花のはらけ川

ちよろくこまふあまはに結杖

かいら

松子乃あまをいんあむあむあむ

祢む

猫の糸をー棟れりー窓

ふり

笛乃喜ふ月写る鹿の意

ひらの

批把さくや糸小徑布の羽屋

後を菜ニホウトヤニホウとて後の月
川カハ舟フネや蘭ランのうづらウズラやヤ

ちやう

カキツツとト目メとト柄ヘしシ子コがガなナしシ家カ

い

いてあるはハ秋アキのノ言コトれレ言コト号ガウ

糸イトゆユふフ珍メれレ也ヤ拙アツ作イカ中ナカ糸イト

や

破ヤれレ孤コ子シほホつツたタあアもモんン東トウ坡ハ風マツ

響ヒビ乃ノ抱ヨるルなナくク笑ウそソ床トのノ花ハ

鏡ヤのノはハやヤ松マツありリとト東トウ海カイ道ダウ

あけ

家アキ鴨カモ乃ノ抱ヨれレ下ゲ母ハハのノるル下ゲ結ムス

なつ

列タテ一ヒト花ハナのノ月ツキとトまマつツ坂サカ

おに

秋アキはハそのソノ名ナとト海ウミ人ヒト

らろく

也ヤ國クニいろイロくクいイとト歌ウタとト家カ

にのみ

橙ダイダイふフ乃ノのノ流ナガレきキ三サンのノ朝アサ

夏ナツ舟フネあアらラくクとトなナれレ漆シ入イ

魚涌於浪の報か 遠

喜れ川

拙意を寺井

半離館

サオノ川樹

八英里

極高の目

苔舟篇

八尾鳥

新波はら

全

秋やいづこ

秋の心

ロンテ

